

継続的な子供支援を

仙台でシンポジウム



子ども食堂について説明するNPO代表の大橋雄介さん(右から2人目)＝仙台市青葉区五橋2の仙台市福祉プラザで

東日本大震災による被災や、生活困窮などで困難に陥っている子供の支援について考えるシンポジウムが、11日、仙台市青葉区の福祉プラザで開かれた。貧困が背景となった不登校が目立つことや、震災後、県内の中学校で不登校の生徒が増加したことなどが紹介された。

市ボランティアセンター 基調講演で、東北福祉大の社会福祉協議会が主催 金政信教授が「子供を支援し、約200人が参加した。することは地域の活性化に

新たな挑戦が生きる力に

東日本大震災で被災した業者が入る気仙沼市の仮設商店街「ココサカエル」の菓子店に並ぶ「絆ロール」。店主の菊田千鶴子さん(左)は震災前、同じ場所で営んでいたクリーニング店兼自宅を津波

気仙沼の女性で商店街を販売

販売への新たな挑戦だった。店の再建を早々に諦めた菊田さんは、「夢も希望も何もない」と仮設住宅に引きこもっていた。震災の年の末、顧客だった男性が訪ねてきた。「援助に頼らな



販売する菊田千鶴子さん＝気仙沼市商店街「ココサカエル」で、昨年11月

か、散り散りになった近隣住民を訪問しながら、ケーキが、地域のつながりを気付かせて

震災で家庭の貧困顕在化

つながる。継続した支援が重要だ」と訴えた。パネルディスカッションでは、仙台市内の仮設住宅などで学習支援を行うNPO法人アスイクの大橋雄介代表が、仮設住宅からの転居先が決まらない家庭に貧困世帯が多かったと指摘。「震災によって家庭の貧困があぶりだされた。金銭的な問題を抱えている場合は行政とつなぐなど、包括的なサポートをしていくことが必要だ」と呼びかけ、みやぎ生協と連携した「子ども食堂」などの取り組みを紹介した。吉成学区社会福祉協議会副会長の津田正明さんは、地区の小学校や町内会と連携した学習支援を紹介。東北福祉大の子供支援プロジ

天気	のち	一時・時々	5ミリ以上	5ミリ未満	紫外線
仙台	気温9/-2℃	降水確率 10%	3	警戒	2
古川	気温7/-5℃	降水確率 10%	3	警戒	2
石巻	気温8/-3℃	降水確率 10%	3	警戒	2

花粉 少ない やや強い

報告し合う貴重な時間だ。

ケーキが、地域のつながりを気付かせて

優雅 知られ 工芸品 一壺 演を兼 11日

電話 0229-55-3322 (代)

お酒は20歳になってから